

エコチェックノートに チャレンジ ～クリーンセンターの見学より～

小学校4年生の校外学習として5月にクリーンセンターの見学が流山市内全ての小学校で実施され、施設見学とあわせ地球温暖化のしくみなどを学ぶことができました。

子どもたちに配布されたワークシートの一つに「ながれやまエコ・チェックノート」があります。これは各家庭で使用した電気やガス、水道量等をともにCO₂の排出量がどのくらいになるか1ヶ月間調べてみるものです。夏休みの課題として取り組む学校もあります。

結果から、家ででの生活の中でどれくらいの二酸化炭素が出ているかわかり、温暖化対策のために、身近なことから何ができるか考えるきっかけとなります。

今年も多くの子どもたちがエコ・チェックノートにチャレンジし、自分たちを取り巻く環境について考えていきます。



流山北小学校

教育プロセス

命を育てる～ホタルの飼育～

ホタルのホームステイ

東深井小学校では、今年も「ホタルのホームステイ」を呼びかけました。無事に年を越してある程度の大きさまで育った幼虫を、希望者に1ヶ月ほど預かってもらうものです。食べ盛りの幼虫にエサを与え、水かえをして家族ぐるみでホタルを身近に見ることができ、光を発しながら舞う甲虫の親になる前の過程を、間近に観察する貴重な機会になっています。

大きくなっていくホタルの観察

一方、鶴ヶ崎小学校では、4年生が去年から引き続き育ててきたホタルの幼虫を、みんなの目が届く教室前のスペースで飼育しています。エサのタニシにサッと群がるようすや、体のトゲトゲなど、ホタルの幼虫の特徴がよくわかります。成長の段階順に飼育箱を並べてあるので、長い時を経て育つホタルの成長を継続的に見守ることができま

す。どちらの小学校もビオトープがよく整備されています。成長した幼虫はビオトープに放して8月にホタル鑑賞会を実施する予定だそうです。楽しみに待ちたいです。

「陶芸」に挑戦

平成22年5月8日(土)流山市ロータリークラブのお世話で、ギャラリー紫陽堂において、ふれあい陶芸教室が行われました。北部中学校、八木中学校の生徒が参加しました。陶芸作家の田口佳子さんの指導のもと、楽しそうに作陶し、器や置物など個性あふれる作品に仕上げました。



八木中学校

育て、桜の若木たち

八木南小学校の正門を入ると桜の若木が6本並んでいます。これは風さわやかな5月上旬に、学区のボランティアの方々のご厚意で植樹されたものです。



「来年の入学式は、サクラの花で新入生を迎えてあげたい」という地域の方々の願いがソメイヨシノの若木に託されています。

夏 能登の自然体験ツアー参加者募集

石川県能登町での「能登の自然体験学習ツアー」も今年で5年目となります。今回は、里山での散策や川遊び、魚のつかみ取り、能登の伝統行事であるキリコ祭り体験や農家民宿分宿など予定しております。豊かな自然の中で思いっきり体験学習を楽しんでみませんか。

日程：平成22年7月26日(月)～29日(木) 3泊4日
対象：市内在住の小学4～6年生
参加費：59,800円(交通費、食料、保険料、説明会代等)
申込み先：流山市教育委員会指導課 04-7150-6105(直通)

第16回青少年のための科学の祭典千葉県大会 流山市生涯学習センターで開催

来場者は様々な実験や工作を体験することができます。流山市で実施されるのは今年が初めてです。体験コーナーでは、安全に楽しんで頂くためにも小学校低学年のお子さんは保護者の方と一緒にお願いします。6月12日(土)、13日(日)の両日、時間は9:30～16:00です。参加費は無料で、事前の予約は必要ありませんのでふるってご参加ください。
※ ガラス細工等では体験の時間帯を予約するものもあります。

募集案内

よのびか整

～現役の画家が語る、人間観・自然観・歴史観～
講師 日本画家 藤島 大千先生

現代日本画の旗手が、画家の視点から人物のとらえ方、テーマ設定の仕方など、ご自身の体験を通して、簡単な実技を取り入れながらわかりやすく語られます。

昨年度は市内の小中学校でも実技指導とお話をさせていただきました。

日時：7月4日(日) 10:15～11:45
参加費：無料 70名(先着順)
場所：生涯学習センター4階 C-401
申し込み・問い合わせ
流山市教育委員会教育企画室
Tel 7150-8388
ぜひご参加ください。

教育広報

真まごころ心

題字 鈴木 昭夫

第48号
編集発行 流山市教育委員会
TEL 04(7158)1111

誇りを育む ～連携でよりたしかに～

教育長 鈴木 昭夫



日頃の子供の安全や様々な教育活動における、保護者の方々のご支援に御礼申し上げます。昨年は新型インフルエンザの対応に迫られた日々を送ってまいりました。今年は一部の小中学校の運動会が、しめくくりに入っている耐震改修工事のため、1学期に行われていません。

流山の人口は16万人に達し、市広報3月22日号によると10年後には18万人をやや超えると予測されています。小中学生は数年後にピークを迎え、暫く横バイ状態が続いた後、減少に移ると示されています。各地では子供の急激な減少により、統合校という現実と直面していることもありますが、TX沿線での人口増加により、特に小学生数は増加しており、小学校新設の計画をすすめています。

今、流山では23の小中学校に約1万2千名の児童・生徒が在籍し、各々が「誇りある学園」めざし、明日に向かって力いっぱい挑んでいける人間を育てることに汗を流しています。各々の学校には規模や歴史の違い、また地域の特長がありますが、地域の皆様の関わりで子供が自慢できる学園になってもらいたいと思っています。学校もまた、小中学校間の連携を確かにすることで、学習や生徒指導の成果をあげることに努めてまいります。

各地で子供を運ぶ痛ましい事件がおきる昨今、子供たちが落ち着き、正々堂々と未来を拓く活動が展開されますことを。

流山市オリジナル

「音読ながれやま」で生きる力を育成



小学校版「音読ながれやま」がスタートしてから5年が経ち、市内の小学校のあちこちから子ども達の元気な音読の音が響くようになりました。百人一首や論語などの古典を、小学校低学年であっても意欲的に暗唱している姿が見られます。そして、音読の楽しさ、すばらしさを知った子ども達も、

もう中学生になりました。感性が最も豊かなこの時期に、音読にさらに親しんでいくことはとても意義深い、という考えのもと、流山市では今年度、中学校版「音読ながれやま」を作成し配布しました。
・流山や東葛、千葉にゆかりのある作品
・ぜひ中学生に味わってほしい、知識・教養として知っていてほしい作品
・言葉遊び的な作品、読んでいて楽しい作品などを取っています。
「国語科」としてとらえるのではなく、朝自習や学級活動、学年活動や総合的な学習の時間など、さまざまな場面で「音読」に取り組んでいきたいと考えています。

中学校版完成
中学校全学年で活用へ

◆音読を通して、全ての教科の基礎となる言語能力や、豊かな感性・心を育てる。それによって「生きる力の育成」、「人格形成の基礎作り」をする。
◆日本語のリズムや響きを大切に、日本の伝統や文化を尊重する態度を養う。
以上の2点を目標に、これから各中学校において、この音読副読本の活用を図っていきます。
写真は、南流山中学校1学年の朝自習での取り組みの様子です。星野富弘さんの「まつたけ」という詩を4人グループで、とても元気よく音読し合っていました。小学生から積み上げてきた「音読」が生かされ、仲間と共に生き生きと活動している姿が見られました。
勉強に部活に行事にと躍進目覚ましい中学生ですが、「音読ながれやま」の活用を通して豊かな心で成長できるように、取り組んでいきます。



ひと声かけよう！「おはよう、ありがとう、すみません」のとびかう ながれやま